

208 イエスの復活(6)

ヨハネによる福音書 21 : 1～25

▶イエス、七人の弟子に現れる (ヨハネによる福音書 21 : 1～14)

01 その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第 (→成り行き) はこうである。

→ティベリアス湖 Sea of Tiberias : ヨハネの福音書のみに登場する表記で、ガリラヤ湖のことである。これは、ローマ第2代皇帝ティベリウス (在位 : AD14～37) にちなんで命名された。湖の西岸にはAD26年に建設された古都ティベリアスがある。→ファイル No.526 ガリラヤ湖畔 周辺の町

	タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 2 / 聖句等の総数 33250 <ティベリアス湖>2個〕	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) 〔検索語彙 : ティベリアス湖〕
S	ヨハネによる福音書	6:1	その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。	
S	ヨハネによる福音書	21:1	その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。	

02 ①シモン・ペトロ、ディディモ (→双子) と呼ばれる⑦トマス、ガリラヤのカナ出身の⑥ナタナエル (→「神は与える」という意で、一般には「バルトロマイ」と呼ばれる、ナタナエルはイエスを神の子と認めている→ヨハネ 1 : 45～49、21 : 2)、ゼベダイの子たち (→③ヤコブとその弟④ヨハネ→マルコ 3 : 17、ルカ 5 : 11、6 : 14)、それに、ほかの二人の弟子ⒶⒷが一緒にいた。

【参考】「十二使徒の名は次のとおりである。まず①ペトロと呼ばれるシモンと②その兄弟アンデレ、③ゼベダイの子ヤコブと④その兄弟ヨハネ、⑤フィリポと⑥バルトロマイ (=ナタナエル)、⑦トマスと⑧徴税人のマタイ、⑨アルファイの子ヤコブと⑩タダイ、⑪熱心党のシモン、それに⑫イエスを裏切ったイスカリオテのユダである。」(マタイによる福音書 10 : 2～4)

→ナタナエル(バルトロマイ Bartholomew) →ヨハネだけの表記

Bartholomew「タルマイの子」(アラム語) 別名: ナタナエル、ガリラヤ・カナ出身／フィリポの友人

別名ナタナエル (姓 [父名] : バルトロマイ、名 : ナタナエル Nathanael—神は与えたもう)。アラム語の「バル・タルマイ (タルマイの子)」のギリシア語音写。フィリポのすすめでキリストと出会い、弟子になった。イエスの忠実な弟子で、十二使徒の中では目立たない存在だった。弟子になる以前については語られていないが、復活したイエスが七人の弟子の前に現れた際、ナタナエルは他の弟子たちと共に漁に出ていることから、同じく漁師だったのではないかとも思われる。

イエスの死後、インドからアルメニア (西アジアの南コーカサスに位置する共和制国家) で広い範囲で伝道活動をしていたが、インドにて、王に洗礼を与えるも、その弟によって捕らえられて生きながら皮剥ぎの刑 (皮を剥がさる刑) によって殺されたとされる (伝承は複数あり)。

03 シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった (→神の摂理)。

→「わたしは漁に行く」

イエスを失ったことによる、失意、喪失感、将来への不安感等からか、再び元の仕事の漁師に戻り、これからの人生を生きていくと言う気持ちも伺うことが出来る。ペトロ本来のせっかちな性格も出ている。三年間、主と共に生活し、教えを直に聞き、伝道していたにもかかわらず、ペトロの中には「わたしがする」「わたしが・・・」といった意識が強かった。リーダーであるペトロの発言でもあって、他の6人の弟子たちも同調している。

ペトロが弟子になる前に、イエスから「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われたことがありました。そのとおりにしたら、大漁になったのです (ルカ 5 : 4～11)。そんな奇跡を実際に体験し、

イエスに従ってきたにもかかわらず、ここでもペトロは、「わたしは漁に行く」と言っています。それは今まで、イエスを忘れた、伝道をしていたからです。イエスが中心でない、わたし中心だったのです。

04 既に夜が明けたころ（→月曜日）、イエスが岸に立っておられた。

だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。（夜が明けたところでまだ薄暗かったからである。）

05 イエスが、「**子たちよ、何か食べる物があるか**」と言われると、彼らは、「**ありません**」と答えた。

06 イエスは言われた。「**舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。**」

そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。

→右側は、イエスが復活され 40 日目に天に上られてから座った栄誉と権力を示す場所（右の座）です（ローマ 8 : 34、ヘブライ 1 : 3）。

また最後の審判の時に、祝福を受ける者の座る場所です。反対に左側は、神の裁きの場所です（マタイ 25 : 31~41）。

聖書では、右側は祝福の場所、左側は裁きの場所です。

イエスがわざわざここで「船の右側に網を打ちなさい」と言われたのは、神様の祝福の場所に網を投げなさいと言うことです。一方、左側は、「わたしが漁をする。」「わたしが伝道する」と言う人間の強い意志を表しているのです。どちらも伝道しているように思えますが、一方は神の指示に従って、聖霊の示す通りに行っていますが、他方は自分の強い意志、自力で伝道しているのです。自分の経験や勘、技術を生かして、漁をすることです。でも真のリーダーはペトロではなく、それはイエス・キリストなのです。



07 イエスの愛しておられたあの弟子（ヨハネ）が（最初にイエスに気付いて）ペトロに、「**主だ**」（「主が岸に立っています」）と言った。シモン・ペトロは「**主だ**」と聞くと、裸同然（→聖書協会共同訳：裸）だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。（そして、急いで、岸に向かって泳いだ。）

→リビング・バイブル：その時、私ははっと気がつき、「おい、あの方は主だよ！」とペテロに言いました。それを聞くと、ペテロは裸だったので、あわてて上着をはおり、水に飛び込みました。

→裸なのは、投網した後、飛び込み、水に潜り、網が何かに引っ掛かっているかを確認したと思われる。

08 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から**二百ペキス**（約 90m＝約 45 cm /ペキス×200 ペキス）ばかりしか離れていなかったのである。

09 さて、陸に上がってみると、**炭火**がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、**パン**もあった。

→魚（ichthys イクトゥス：ギリシア語）はイエスの象徴、パンは聖餐のパン（ヨハネ 6 : 53）。



10 イエスが、「**今とった魚を何匹か持って来なさい**」と言われた。

11 シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、**百五十三匹**もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。

→当時は、魚を漁師たちで公平に分けた。だから、魚の数が 153 匹と記されている。数字「百五十三」はここにしか登場しない。また、当時の網は弱く、破れやすかった。

12 イエスは、「**さあ、来て、朝の食事をしなさい**」と（食事に招いて）言われた。

弟子たちはだれも、「**あなたはどなたですか**」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。

13 イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。→和解の食事

14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

▶イエスとペトロ（ヨハネによる福音書 21：15～19）

・・・ここからは、話が漁師の話から羊飼いの話へと移行され、教会誕生への前提となっている・・・

15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「**ヨハネの子シモン**（→NIV：Simon son of John/Simon/NKJV：son of Jonah）、**この人たちにわたしを愛しているか**」と言われた。

ペトロが、「はい、主よ、**わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです**」と言うと、

イエスは、「**わたしの小羊**（→霊的に幼い信者）**を飼いなさい**」と言われた。

→イエスは御自分を良い羊飼いと呼んだ（ヨハネ 10：14）。

16 二度目にイエスは言われた。「**ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。**」

ペトロが、「はい、主よ、**わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです**」と言うと、

イエスは、「**わたしの羊**（→一般の信者）**の世話をしなさい**」と言われた。

→イエスに従う者たちはイエスの羊（小羊）の群れである。イエスは、ペトロに羊（イエスに従う者）たちの世話をするように言う。この世話には、人の罪を赦すことも含まれる（ヨハネ 20：23）。

17 三度目にイエスは言われた。「**ヨハネの子シモン**（＝シモン・バルヨナ、シモン・ペトロ、NIV：Simon son of John/ NKJV：Simon, son of Jonah）、**わたしを愛しているか。**」

ペトロは、イエスが三度目も、「**わたしを愛しているか**」と言われたので、悲しくなった。そして言った。

「**主よ、あなたは何かもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。**」

イエスは言われた。「**わたしの羊**（→一般の信者）**を飼いなさい。** 18 **はっきり言っておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。**」

→イエスが三度、ペトロに聞いたのは、かつてペトロがイエスを三度拒否したからである。

タイトル(書名)		章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S	マタイによる福音書	26:34 イエスは言われた。「はっきり言っておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」	
S	マタイによる福音書	26:75 ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。	
S	マルコによる福音書	14:30 イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」	
S	マルコによる福音書	14:72 するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。	
S	ルカによる福音書	22:34 イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」	
S	ルカによる福音書	22:61 主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。	
S	ヨハネによる福音書	13:38 イエスは答えられた。「わたしのために命を捨てると言うのか。はっきり言っておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」 18:18 僕や下役たちは、寒かったので【炭火】をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。	

19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「**わたしに従いなさい**」と言われた。

▶イエスとその愛する弟子（ヨハネによる福音書 21：20～25）

20 ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子（ヨハネ）がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「**主よ、裏切るのはだれですか**」と言った人である。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 2 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S	ヨハネによる福音書	13:25 その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うと、	
S	ヨハネによる福音書	21:20 ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。	

21 ペトロは彼（→ヨハネ）を見て、「**主よ、この人はどうなるのでしょうか**」と言った。

22 イエスは（叱責して）言われた。「**わたしの来る**（→再臨の）**ときまで彼**（→ヨハネ）**が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。**」

23 それで、この弟子は死なないといううわさが兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「**わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか**」と言われたのである。

24 これらのことについて証しをし、それを書いたのは、この弟子（→ヨハネ）である。わたしたちは、彼（→ヨハネ）の証しが真実であることを知っている。

25 イエスのなさったことは、このほかにも、まだたくさんある。わたし（→ヨハネ）は思う。その一つ一つを書くならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。

・・・・・・・・ヨハネの福音書（終わり）

【参考】復活したイエスの顕現

< 1 > マグダラのマリアに現れる（マルコ 16：9～11、ヨハネ 20：11～18 他）→ファイル No. 204

< 2 > 婦人たちに（マタイ 28：9～10 他）→ファイル No. 204

< 3 > エマオ途上の二人の弟子たちに（ルカ 24：13～32 他）→ファイル No. 206

< 4 > シモン・ペトロに（ルカ 24：34）→ファイル No. 206

< 5 > トマスを除いた弟子たちに（ヨハネ 20：19～25、ルカ 24：36～49 他）→ファイル No. 207

< 6 > トマスを含む弟子たちに（ヨハネ 21：24～31）→ファイル No. 207

< 7 > ガリラヤ（ティベリアス）湖畔で7人の弟子たちに（ヨハネ 21：1～25）→ファイル No. 208

< 8 > 500人以上の兄弟（信徒）たちに（I コリ 15：6）

< 9 > ヤコブに（I コリ 15：7）

< 10 > オリーブ山で使徒たちに（使徒 1：3～12）

【参考】聖書に登場する「右の座」「右」「左」「右側」「左側」

タイトル(書名)		章:節 聖句 [検索対象総数: 14 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S	マタイによる福音書	22:44 『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい、／わたしがあなたの敵を／あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』	
S	マタイによる福音書	25:33 羊を右に、山羊を左に置く。	
S	マタイによる福音書	25:34 そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。』	
S	マタイによる福音書	25:41 それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。』	
S	マルコによる福音書	12:36 ダビデ自身が聖霊を受けて言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵を／あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』	
S	マルコによる福音書	16:19 主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。	
S	ルカによる福音書	20:42 ダビデ自身が詩編の中で言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。』	
S	ヨハネによる福音書	21:6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。	
S	使徒言行録	2:34 ダビデは天に昇りませんでした、彼自身こう言っています。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着け。』	
S	エフェソの信徒への手紙	1:20 神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、	
S	コロサイの信徒への手紙	3:1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。	
S	ヘブライ人への手紙	1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。	
S	ヘブライ人への手紙	8:1 今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、	
S	ヘブライ人への手紙	10:12 しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、	